

平成 30 年度第 4 回企画展

道仏遺跡発掘出土品展



会期:平成31年3月9日(土)~5月6日(月・祝)

宮代町郷土資料館

〒345-0817

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289

TEL: 0480-34-8882

FAX: 0480-34-5601

ごあいさつ

道仏遺跡では平成9年度から平成26年度にかけて過去5回の発掘調査が実施されています。これまでの調査において5世紀後半から6世紀後半の住居跡が147軒見つかり、古墳時代の大きな集落跡であったことが明らかになっています。

今回、平成29年10月24日から平成30年3月24日にかけて発掘調査を実施し、その結果、これまでの調査と同時期における集落のさらなる広がりや密集の様子を確認することができました。また、大型の住居跡や多数の須恵器が出土するなど、今までの調査で確認されなかった新しい発見もありました。

今回の展示では、平成29年度に実施した発掘調査の現時点での成果の一端を公開し、古墳時代の土師器、須恵器、韓式系軟質土器、土錘などの土製品、紡錘車や勾玉などの石製品といった出土遺物を紹介します。

この企画展の開催にあたり、ご指導、ご教示等頂きました関係の方々、発掘調査及び整理作業にご協力頂いた方々に深く感謝申し上げます。

平成31年3月
宮代町郷土資料館

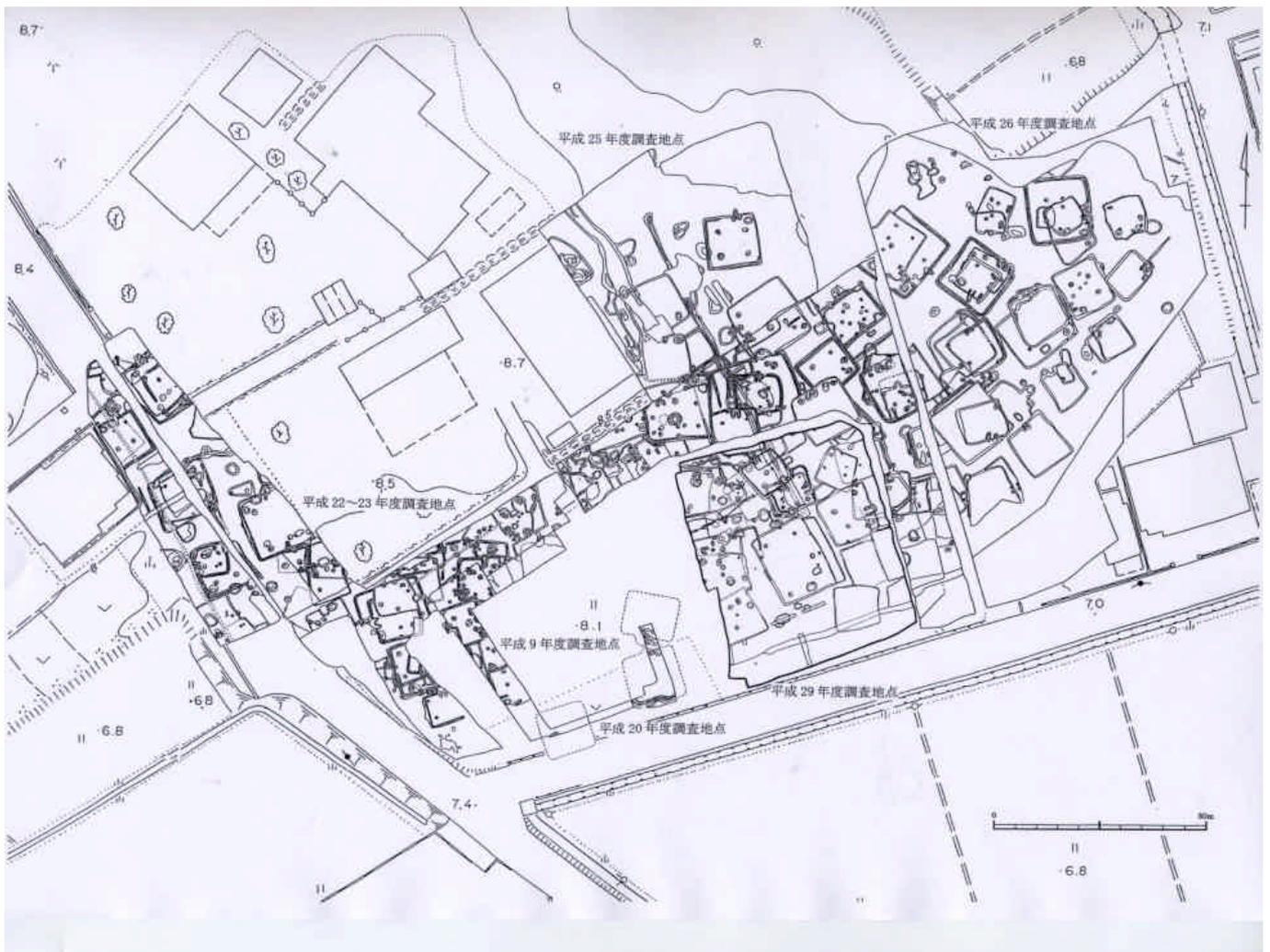
～凡例～

1. 本書は、平成31年3月9日（土）から5月6日（月・祝）まで開催される、宮代町郷土資料館平成30年度第4回企画展「道仏遺跡発掘出土品展」の展示図録です。
2. 展示開催期間中の休館日は次の通りです。
3月11・18・22・25日、4月1・11・18・25日
3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆、デザイン、編集等は宮部俊周（当館学芸員）が担当し、横内美穂（当館学芸員）が指導・補佐しました。
4. 図録の構成は、展示内容と異なります。また、掲載した写真の大きさは任意のものです。
5. 会場及び本書中の敬称は省略させていただきました。
6. 協力者一覧（五十音順・敬称略）
青木秀雄

道仏遺跡の概要

道仏遺跡は、現在の道佛3丁目付近、宮代町の中央やや南東側の古利根川右岸、大宮台地東側縁辺部に位置しています。道仏遺跡の東約1 kmの位置には、利根川の本流であった古利根川が流れています。

発掘調査は、道仏土地区画整理事業に伴い平成9年～26年までの期間で5回実施されています。その結果、5世紀後半から6世紀後半にかけての古墳時代中期から後期の住居跡が147軒を始めとして、土師器焼成坑などの遺構が検出され、同時代に大規模な集落が形成されていたことがわかりました。遺物は土師器、須恵器、韓式系軟質土器などをはじめ、漁労に使用した大型土錘や管状土錘、土玉も出土しています。この他、剣、鏡、玉類のミニチュアで祭祀に使用された石製模造品や、フィゴの羽口、鉄滓といった鍛冶関連の遺物も出土しています。



道仏遺跡発掘調査範囲全測図

道仏遺跡調査略史

調査年度	調査期間	調査範囲	調査内容	調査結果
平成29年度	平成29年10月24日～平成30年3月24日	道仏地区土地区画整理事務所の東側	古墳時代の住居跡、土坑、道路状遺構の発掘調査	住居跡32軒、土坑18基、道路状遺構1条の検出。出土遺物として、古墳時代の土師器、須恵器、韓式系軟質土器、石製模造品、土製品、玉類などが出土した。
平成28年度	平成28年10月24日～平成29年3月24日	道仏地区土地区画整理事務所の東側	古墳時代の住居跡、土坑の発掘調査	住居跡12軒、土坑10基の検出。出土遺物として、古墳時代の土師器、須恵器、韓式系軟質土器、石製模造品、土製品、玉類などが出土した。
平成27年度	平成27年10月24日～平成28年3月24日	道仏地区土地区画整理事務所の東側	古墳時代の住居跡、土坑の発掘調査	住居跡10軒、土坑8基の検出。出土遺物として、古墳時代の土師器、須恵器、韓式系軟質土器、石製模造品、土製品、玉類などが出土した。
平成26年度	平成26年10月24日～平成27年3月24日	道仏地区土地区画整理事務所の東側	古墳時代の住居跡、土坑の発掘調査	住居跡8軒、土坑6基の検出。出土遺物として、古墳時代の土師器、須恵器、韓式系軟質土器、石製模造品、土製品、玉類などが出土した。
平成25年度	平成25年10月24日～平成26年3月24日	道仏地区土地区画整理事務所の東側	古墳時代の住居跡、土坑の発掘調査	住居跡6軒、土坑4基の検出。出土遺物として、古墳時代の土師器、須恵器、韓式系軟質土器、石製模造品、土製品、玉類などが出土した。
平成24年度	平成24年10月24日～平成25年3月24日	道仏地区土地区画整理事務所の東側	古墳時代の住居跡、土坑の発掘調査	住居跡4軒、土坑2基の検出。出土遺物として、古墳時代の土師器、須恵器、韓式系軟質土器、石製模造品、土製品、玉類などが出土した。

平成 29 年度調査の概要

平成 29 年度に実施した道仏遺跡の発掘調査は、平成 29 年 10 月 24 日から平成 30 年 3 月 24 日の期間で行われました。調査地点は道仏地区土地区画整理事務所の東側です。

調査の結果、古墳時代の住居跡が 32 軒、土坑が 18 基検出され、以前の調査で確認された住居跡の続きが 9 軒、道路状遺構 1 条も確認されました。主な出土遺物は古墳時代の土師器、須恵器、韓式系軟質土器、石製模造品、土製品、玉類などです。

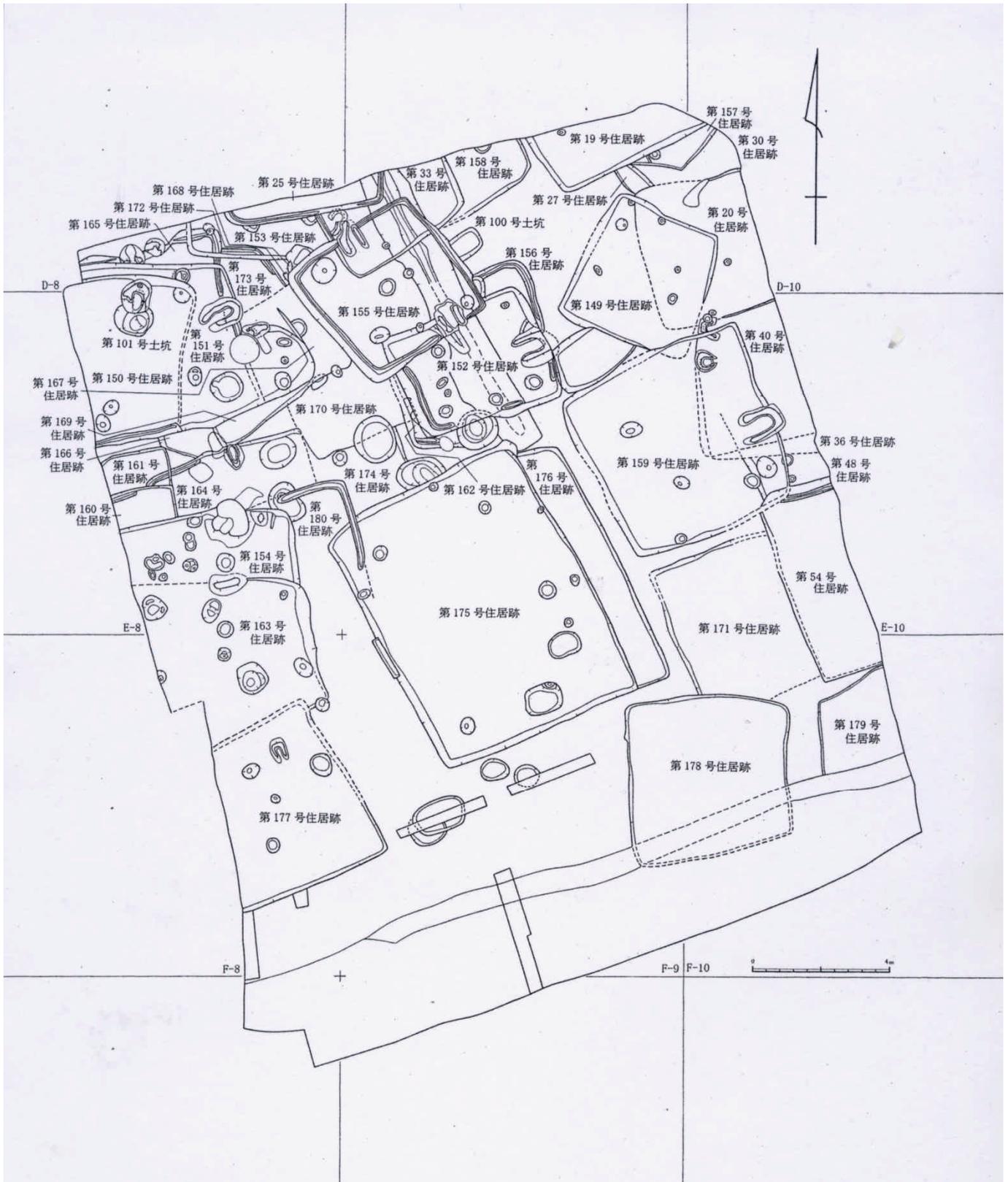
今回の調査では、約 500 m²という限られた範囲に 41 軒もの住居跡が密集しており、住居跡同士の重複が著しいのが特徴的でした。中には焼失住居跡と考えられる住居跡や大型の住居跡、井戸と推定される土坑など特徴的な遺構が検出されています。遺物についても大変多く出土し、特に以前の調査のときに埼玉県で初めて出土した韓式系軟質土器が、今回の調査でも新たに 40 点ほど出土しました。また、これまでの調査で発見された点数を大きく上回る量の須恵器や道仏遺跡内では初となる勾玉が出土するなど、大きな成果がありました。現在、資料館内において詳細な整理作業を行っていますが、その課程でわかってきた特徴的な遺構や遺物を紹介していきます。



北側調査区全景



南側調査区全景



平成 29 年度発掘調査全測図



第 19 号住居跡完掘（古墳時代）



第 19 号住居跡須恵器（はそり）出土状況



第 149 号住居跡完掘（古墳時代）



第 149 号住居跡土師器（かめ）出土状況

遺物について

須恵器

山の斜面を掘って構築した窯で焼成された土器です。かんげんえん還元炎によって高温で焼かれるため、青灰色で硬質の土器となります。古墳時代に渡来系の人々によってその技法が伝えられ、食器や祭器、貯蔵器として用いられていました。平成 29 年度の調査ではつき坏・かめ甕・はそり甗・ていへい提瓶などの器種が出土しています。

土師器

赤褐色や暗褐色の素焼きの土器です。古墳時代では日常的に使用されていた土器で食器、調理用具など広い用途に用いられていました。今回の調査ではつき坏・かめ甕・つぼ壺・こしき甑などの器種が出土しています。

第 155 号住居跡

調査区北側から検出。平面方形を呈し、第 33・152 号住居跡と重複します。床面には放射状に炭化材が広がっており、焼失住居であると考えられます。遺物は土師器、須恵器、土玉、紡錘車^{ぼうすいしゃ}、軽石などが出土しました。



第 33・155 号住居跡完掘（古墳時代）



第 155 号住居跡^{かまど}竈内土師器出土状況



第 155 号住居跡炭化材検出状況

第 159 号住居跡

調査区南東より検出。平面方形を呈し、規模は長径約 5.5m です。東側は第 48・54 号住居と重複しています。第 155 号住居と同様に床面に炭化材や焼土が広がっており、焼失住居であると推定されます。遺物は土師器、須恵器、ミニチュア土器、ないしやくこうえん内斜口縁坏、石製模造品、軽石などが出土しました。



第 159 号住居跡完掘（古墳時代）



第 159 号住居跡土師器（甕）出土状況



第 159 号住居跡土師器（甕）出土状況



第 159 号住居跡炭化材検出状況



第 159 号住居跡調査風景

第 175 号住居跡

調査区中央から南側より検出。平面方形を呈し、長径約8m、短径約6mを測る大型の住居跡です。遺物は須恵器、土師器、韓式系軟質土器、土製品、石製品、軽石が出土しました。集落の最南端、台地の先端部に位置する点などから通常の住居跡とは性格の異なる可能性もあります。



第 175 号住居跡完掘（古墳時代）



第 175 号住居跡遺物（土師器）出土状況



第 175 号住居跡土師器（甕）出土状況



第 175 号住居跡韓式系軟質土器出土状況



第 175 号住居跡調査風景

遺物について

韓式系軟質土器

朝鮮半島で日常的に使用されていた土器で、表面にタタキを施し成形・焼成されたものです。古墳時代に渡来系の人々によってもたらされ、関東地方では特に群馬県榛名山麓高崎市周辺から多く出土しています。在地では日常的に使用される土器として土師器が存在しており、この軟質土器を使用するのは渡来人かその子孫の可能性が高いと考えられます。このことから、格子タタキの韓式系軟質土器が出土した道仏遺跡と渡来系の人々との関係が窺われます。また、当時の周辺地域との交流を考える上で貴重な資料です。

埼玉県内では道仏遺跡で出土した例が現在のところ唯一で、これまでの調査では7点が出土し、平成29年度の調査では新たに40点ほど出土しました。



第 106 号土坑韓式系軟質土器出土状況



第 151 号住居跡韓式系軟質土器出土状況

土器集中地点D-9-4

調査区北東より検出。土師器（^{つき}坏、^{たかつき}高坏等）、須恵器（^{はそう}甗、^{かめ}甕、^{ていへい}提瓶等）がまとまって出土しています。何らかの祭祀が執り行われた可能性があります。



土器集中地点D-9-4土師器・須恵器出土状況



土器集中地点D-9-4須恵器（^{ていへい}提瓶）出土状況



土器集中地点D-9-4土師器（^{つき}坏）出土状況

土器集中地点E-9-4

調査区中央より検出。須恵器の^{おおがめ}大甕などの大型の須恵器片がまとまって出土しました。周辺から炭化物粒子や焼土ブロックも検出されており、何らかの祭祀が執り行われた可能性があります。



土器集中地点E-9-4須恵器出土状況



土器集中地点E-9-4調査風景



土器集中地点E-9-4須恵器（^{かめ}甕）出土状況



土器集中地点D-9-4、E-9-4位置図

第 101 号土坑

調査区北西より検出。平面円形を呈し、長径 1.2m、短径 1 mを測ります。深さは確認面から 1.4 mほどでほぼ垂直に立ち上がり、井戸跡と考えられます。遺物は遺構上面から完形の甕^{かめ}2点がまとまって出土しています。



第 101 号土坑土師器（甕）出土状況



第 175 号住居跡紡錘車^{ぼうすいしゃ}出土状況



第 54 号住居跡石製模造品^{せきせいもそうひん}（剣形品^{けんけいひん}）出土状況

遺物について

石製模造品

実物を模造して作製された小型の石製品で、主に滑石から造られました。古墳時代に発達し、祭祀や供献的な性格を持っていたと考えられています。平成 29 年度調査では剣形品^{けんけいひん}や有孔円板^{ゆうこうえんばん}、勾玉形品^{まがたまけいひん}などが出土しています。

紡錘車

糸を紡ぐ際に用いる道具です。滑石製^{かつせき}のものが多く、今回出土したものは表面に線刻が施されています。

発掘調査の成果と今後の展望

埋蔵文化財の発掘調査は、現場の調査と整理作業を適切に行い、その成果をまとめた報告書の刊行をもって完了します。またその成果は、広く公開することが求められています。

現在、宮代町教育委員会においても作業員や地域の方々に支えられながら、出土遺物の洗浄、注記作業、復元作業などの発掘調査報告書を刊行するための整理作業を実施しています。平成29年度の調査では様々な発見のあった道仏遺跡ですが、これから整理を進めていく中で判明していくこともありますので、今後の成果にご期待下さい。



遺物整理作業風景（土器洗浄）



遺物整理作業風景（注記）



遺物整理作業風景（土器復元）



遺物整理作業風景（トレース）